

新年おめでとうございます。本年もカフェグッズをよろしくお願い申し上げます。  
年頭に当たり、この10年の商品開発履歴を整理いたしました。そしていよいよ次なる本年を迎えます。

## カフェグッズ 商品開発 10年史

2012年 4月 アメリカ西海岸視察で、Blue Bottle や Four Barrel のクラフトカップと、CPLA リッドに  
衝撃を受ける。



Four Barrel Coffee

Blue Bottle Coffee (いずれも2012年視察にて)

2012年 7月 ロンドンオリンピック開催。「**オリンピック史上最も環境に配慮した大会**」とされた。

- 1) 土壌が汚染していた工業地帯をオリンピックパークとして再生し、野生生物の生息地や洪水軽減に貢献、
- 2) 古いガス管の再利用などにより、スタジアムの軽量化を図り、史上最も持続可能なスタジアムを実現、
- 3) オリンピックでは初めて、全期間を通してカーボンフットプリントを算出、
- 4) 廃棄物の埋め立て処分ゼロを宣言し、建物の解体・建設時に生じる廃棄物の100%近い再利用やリサイクルに成功、
- 5) 公共交通機関の利用等による持続可能な輸送を実現

**会場内や選手村では生分解性紙コップが採用されました。**

2013年 4月 PLA クラフトカップを日本国内で販売開始する。

ロンドン五輪で採用されたカップメーカー（台湾）からの輸入商品。



2013年発売のPLAクラフトカップ

たまたま数社に声をかけた中で、「当社も使っていただきました」という工場が見つかり、輸入に至ったもの。

2013年 5月 メルボルン視察でカフェやコーヒーショップにおける先進的な環境問題への取り組みを学ぶ。



Proud Mary

Market Lean

Auction Room

St.ALI

この年代に多くのカフェのカップにPLAラミネート、リッドはCPLAリッドを使っていた。広大な大陸であるオーストラリアだが、環境問題に対する注目の高さが伝わり、カフェ・コーヒー市場の環境対策におけるモデルケースと考えられた。

**2014年 4月 アメリカ東海岸視察でなどのコーヒーショップに環境対策を学ぶ。**



Ultimo

JOE

Café Grumpy

Gimme!

Stumptown

Saturdays Sarf

まだ厚紙カップと PS リッド&スリーブのサービスが多く、NY でも Blue Bottle Coffee が環境対応で進んでいる印象だった。

**2015年 6月 アイルランド及び北欧視察でカフェやコーヒーショップの環境対策を学ぶ。**



3fe Café

Collective

Mocca Kaffebar

Kaffebrenneriet

回った限りではコーヒーショップでは環境対応が進んでいる様子が見えなかったが、プラスチックカップは余り見かけなかった。しかしロースタリーカフェの多くは Togo を強くアピールせず、持参マグなどへの対応もスムーズな様子だった。

**2016年 10月 PLA クラフトカップ（FSC 原紙）を日本国内で販売開始する。**



F S C 認証クラフト原紙と PLA ラミネートはあのコーヒーショップと同じ

クラフトカップの利点である 2 種の原紙を貼合した強度に優れた紙コップで、アイス用にも使用可能な合理的なカップだが、品質問題が継続して発生するなど、不安定なカップだった。加えて輸入代理店の姿勢に接して対応に苦しみ、残念ながら取り扱いを断念した。

**2019年 5月 PLA バガスカップと CPLA Lid の販売を開始する。**



非木材紙カップとしてバガス（サトウキビの搾り残渣）から抄造した原紙に PLA ラミ、セットしたのは PLA の耐熱グレードで CPLA リッド  
カーギルジャパンの国内向け PLA 会議（2015 頃）に参加して台湾の成功例を聞いていたが、2001 年～02 年に台湾市場をつぶさに見ていて同感。台湾企業が中国本土に進出して製造拠点を設ける動きが加速していた時代、その成功者と言われた企業のカップ工場と巡り合っって輸入が始まるが驚くほど品質が安定している。

2019年 6月 メルボルン及びシドニー視察で最先端の環境対策を学ぶ。カフェグッズのモデルです。



これらのカップすべてが100%生分解性で、カフェやコーヒーショップの環境意識の高さが理解される。



2019年のメルボルンとシドニーの視察で手にした環境対応のカップの数々。

カフェやコーヒーショップは Bio Cup や Compostable Cup を使用。白カップにシンプルなロゴ印刷も多い。



Paper Cup Project で  
Plastic Free 紙コップを知り  
調査を始める。

既に一部のカフェでは Pla-Free カップが使われていたが、フィルムラミネートのない純パルプのためにリサイクルが容易。紙コップはバージンパルプで作られる板紙原紙製品であり、回収、再資源化により高品質なパルプ資源に再生する。また最大7段階のリパルプが可能とされている。

右は Recycle Me! の表示されたカップ（底裏とサイド）と、SEVEN SEEDS に設置されていた Recycle Me! の回収ボックスの写真。もし日本国内で考えれば、使用済みカップを簡単に洗浄乾燥できれば再生原料になるだろう。



Recycle Me! のマーク入りカップとカップ&リッドの回収ボックス

2022年3月 TAPS リサイクルペットカップ(r-PET)の販売を開始。

2022年10月 TAPS リサイクルペットカップ用のオリジナルノーストローリッド(r-PET)を開発し発売。



グローバルスタンダードといわれる海外製品の A-PET カップで、リサイクルシートのカップを最初に販売したカフェグッズですが、いくつかの疑問を抱えていました。商社経由の調達に限界を感じ、国内メーカーとの共同開発にシフト。微妙に異なる口径に合わせて、オリジナル意匠のノーストローリッドを開発。Joonil 社の製品は素晴らしいのですが、リサイクル原料が使用できないことが一つの問題でした。生分解性の PLA カップは熱に弱く、一般流通向きではありません。バイオ原料のペットカップも混合率が低く、現時点で TAPS の 25%以上のリサイクルカップが、品質と環境への対応で有効な選択肢となりました。本格的には今春からの販売を目指しています。

2023年3月 プラスチック・フリー紙コップを日本国内で発売予定。



Coffee Testは何度も繰り返しました。ラミネートがない影響をつぶさに調べましたが通常の使用で問題はありませんでした。

プラスチック・フリーカップの登場は2017年でした。その後いろいろな技術が開発され、欧米とオーストラリアやニュージーランド市場では供給が始まり日常的に使用されています。使用後の処理ではリサイクルするのか、生分解するのか、様々にチャレンジが行われています。しかし日本での本格的なスタートはまだ始まっていません。カフェグッズは flustix-認証に参加した製品を本年3月から販売する予定です。PE（ポリ）や PLA（ポリ乳酸）のフィルムをラミネートした（プラスチック層を貼り合わせた）カップと異なり、紙の抄紙段階で耐水効果物質を加えて原紙を造るか、耐水効果剤の水溶液に浸してから乾燥して防水層を造るか、あるいは成型工程で貼り合わせ部分だけに塗布して接着成型をするか、などの方法が確立されていますが、もちろん食品容器としての使用に問題はなく、分析試験も受けております。

このことで私が一番期待するのは、カップ原紙のパルプ資源という価値です。食品容器としての紙コップはバージンパルプから製造され、板紙のために良質な木材繊維（セルロース）が原料です。それを回収すれば純高級なパルプ原料であり、最大で7段階のリパルプが可能です。印刷用紙、紙器、包装用紙、画用紙やコピー用紙、トイレットペーパーやティシュペーパー、新聞紙、段ボールと、次々に製品を生み出すことができます。数十年かけて成長した木材を余すところなく使い込むことができれば、それは日本の「もったいない」精神ともなり、森林資源の保護にも繋がるものと考えております。

その始まりは、使われた紙コップを集めて仮洗浄して乾かす。それを他の紙と混ぜないでリサイクルの流れに乗せることが必要です。多少の手間はかかりますが、移動カフェや個人経営のカフェに適したリサイクル方法の一つかも知れません

## 2023年3月 バガス・パルプモールドリッドを発売予定。



モールド製品は卵パックから緩衝材に至るまで、広範に使われています。しかしリッドを作るにはバージンパルプであること、口あたりの良いこと、そして飲むときの安心感が欠かせません。モールド成形の金型を磨き上げ、平滑度を高めて口当たりを改善する。プラスチックリッドと比べてカチツとはならず、グズツ！とした勘合ですがリッドが手で回らないこと、飲む間はしっかりホールドが効いていることなど重要な要素はいくつもあります。

カフェグッズはそのためにできることを考え、今後も様々にチャレンジしたいと思います。山火事から多くのコアラを救いだせなかったオーストラリアの人々の心を受け止め、真摯に学ぶことが今必要と考え、行動しています。

2023年1月10日 カフェグッズ 小林 文夫  
© 2023 Cafegoods Co.,Ltd.